

東京大学公共政策大学院（GraSPP）の概要

2020年5月

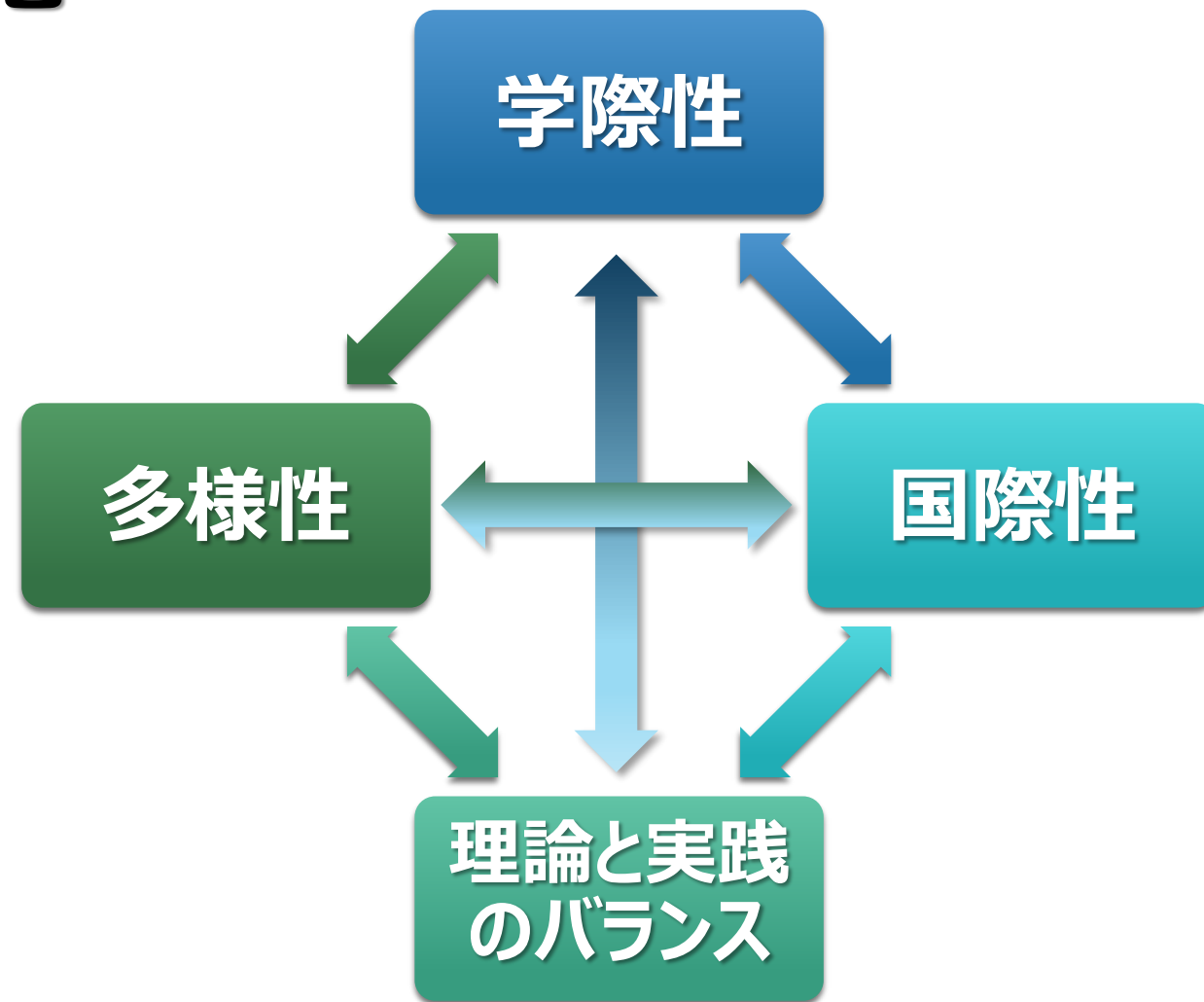
東京大学公共政策大学院（公共政策学教育部）

目次

- 公共政策大学院（GraSPP）の特色
- 求める学生像
- GraSPPで学べる公共政策の主な分野
- 5つのコース（法政策、公共管理、国際公共政策、経済政策、国際プログラム）
- COVID-19に対応したオンライン授業
- 修了生の進路
- 職業人選抜
- 2021年度入学者選抜について
- 学生・修了生の声

公共政策大学院（GraSPP）の特色

- 学際性
法学・政治学・経済学をベースに、一つの学問分野では解決できない課題に取り組む。
- 国際性
55か国以上からの留学生受け入れ実績があり、常時30か国前後の学生と共に学ぶ。
- 多様性
国籍、専門分野、職業経験など多様なバックグラウンドを持つ学生と切磋琢磨。
- 理論と実践のバランス
世界クラスの研究者や第一線の実務家教員による理論と実践のバランスがとれた教育。



求める学生像

- 大学院で獲得した高度な専門知識と実務的な能力を礎に、高い倫理観をもって公共政策に関わるプロフェッショナル及びリーダーとして国内外での活躍を目指す人。
- 現代社会が直面する諸課題を適切に認識し、これら課題に対する対応策を構築・評価し、国民に対して伝達し、合意を形成することができる人。
- 政策立案、実施、評価の基礎となるレベルの高い法律学、政治学、経済学をバランスよく学習し、実践に結びつけることができる人。

GraSPPで学べる公共政策の主な分野

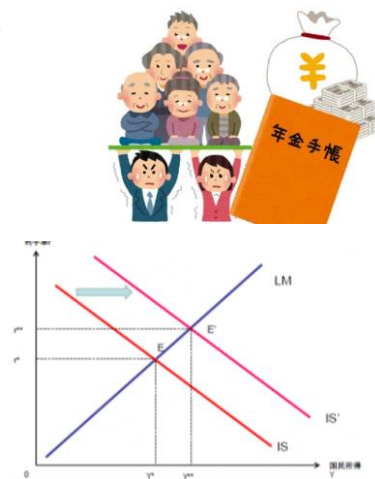
地域活性化・環境政策

都市地域政策、地域交通政策研究、観光地域政策、環境法、環境政策、再生可能エネルギーと公共政策など



社会保障、財政・金融分野

社会保障・人口問題の現代的諸相、保健医療経済学、医療イノベーション政策、医療コミュニケーション学、日本の財政金融政策、コーポレートファイナンスと公共政策、金融市場と公共政策、Global Financial Regulation、Sovereign Debt など



国際化分野

国際行政論、国際開発政策・評価論、食料安全保障と農業政策、国際交通政策、事例研究（外交政策）、International Conflict Study, Modern Japanese Diplomacy, Ethics and International Relationsなど



その他

政策分析・立案の基礎、交渉と合意、公共政策の経済評価、教育政策と教育法、Social Design and Global Leadership, Insurgency and Counterinsurgency など



5つのコース

- 修了年限：2年
- 修了必要単位数：46単位
- 学位：公共政策学修士（専門職）
- 定員：135名/学年
- 5コースから所属を選択

「法政策」、「公共管理」、「国際公共政策」、「経済政策」、「国際プログラム（MPP/IP）」

※国際プログラムの募集時期や入試形態は、他コースとは異なる。

5つのコース



法政策コース

行政における法の理論と実務をバランスよく学び、実践的で高度な法的能力を身に付ける。

- 法学を中心とした視点から様々な社会経済課題を分析し、その解決に必要な知識と企画力を学び、具体的な法令を作成し運用する能力を習得。
- 具体的なケーススタディーを通じて行政現場におけるバランスのとれた法的判断を下すための錬磨を行う。



公共管理コース

政治学・行政学の観点から、今後ますます必要となる公共経営の能力を習得する。

- 政治学、行政学の視点から公共政策に関わる課題を分析し、組織及び政策運営に必要な知識と経営管理能力を習得。
- 公共管理に関わる様々な理論と制度を理解し、新しい公共管理体系を組み立て統括し、具体的な事例を通じて課題の発見と適切な手段の構築を行う。

5つのコース

国際公共政策コース 地球温暖化・安全保障問題等、国際的課題に政策を打ち出し対応する力を育む。



- 外交や開発援助など国際的な政策課題に対する知識と交渉力、企画力を習得し、必要なコミュニケーション方法を学び、国際公共政策に対応する能力を習得。
- 様々な地域に関する政治経済状況を把握し、各地域の抱える課題を理解し、国際的なコンテキストを前提に問題解決を図るための手法を構想する。具体的な国際紛争などの事例を用いて活動のコンテキストを理解する。



経済政策コース 公共政策の場で経済分析を活用する知識と力を、世界に通用する水準で習得する。

- 公共政策を主として経済学の視点から分析、評価するための知識と分析力を習得。
- ミクロ経済学及びマクロ経済学の理論的基礎を実際の応用例に則して教育、定量的評価に必要な計量経済学や費用便益分析のツールを使いこなす能力を養う、ケーススタディーを通じ、政策形成実務に経済分析を活用する能力を養う。

5つのコース

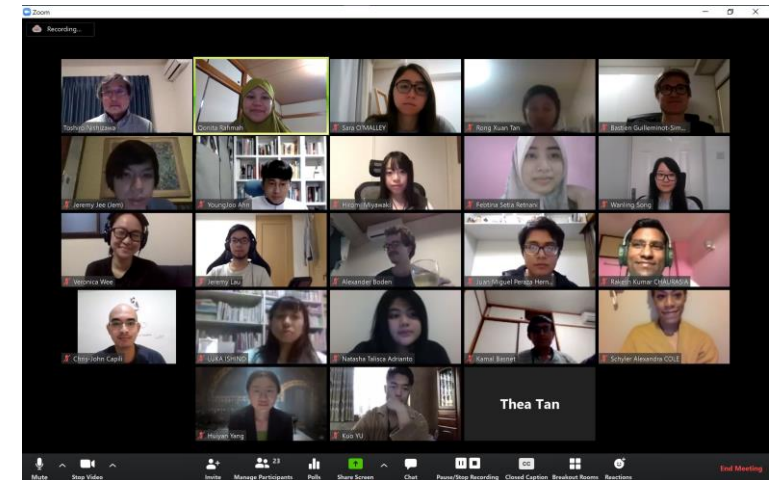
国際プログラムコース



- 英語による科目の履修だけで学位が取れるプログラム（2年間で46単位中、28単位以上の英語科目）
- 筆記試験は行わず、オンライン出願による書類審査と面接のみで選考。
- 入学時期は4月と9月、65名/学年。
- 2つのPolicy Streamからいずれかを選択。
 - EPFD（Economic Policy, Finance and Development）
「経済政策、金融・開発」
 - PMIR（Public Management and International Relations）
「公共管理、国際関係」
- カリキュラムと修了要件は、ダブル・ディグリーに対応した設計。

COVID-19に対応したオンライン授業

- 公共政策大学院では、4月3日から春学期の授業をオンラインで提供。
- 来日できない新入生もオンラインで受講。
- 秋学期に対面式授業が再開された後も、日本への入国が遅れている留学生も安心して授業を受けられるよう、オンライン授業を一部継続する予定。
- COVID-19第二波、第三波にも備えてオンライン授業の設備拡充を計画中。



zoom



修了生の進路（業種別内訳）

調査対象は2018年8月、9月及び2019年3月
修了者。就職者には復職者を含む。

官公庁（国内）	11名
官公庁（海外）	14名
地方公務員（国内）	7名
金融（国内）	9名
金融（海外）	9名
コンサルティング	13名
シンクタンク	3名
研究機関	3名

情報通信業	7名
サービス業	3名
商社	2名
独立行政法人	2名
小売業	2名
製造業	1名
エネルギー業	1名
保険業	1名
監査法人	1名

就職先内訳はHPに掲載。 <http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/news/2019-05-10-20222/>

職業人選抜

- 出願資格：出願時において、官公庁・企業等に在職中であり、2年以上の実務経験を有する者で、入学時以降においても在職の見込みのある者。
- 募集人数：10～20名（募集数に応じて柔軟に対応）
- 選抜方法：筆記試験は行わず、入学願書、外国語審査、口述試験によって選考する。

2020年度：8名

- ・ 衆議院事務局
- ・ 広島県庁
- ・ 東日本旅客鉄道株式会社
- ・ 日本経済新聞社
- ・ 日本赤十字社
- ・ アクセンチュア株式会社
- ・ ピツニーボウズジャパン株式会社
- ・ 韓国資産管理公社

2019年度：6名

- ・ 総務省
- ・ 熊本県庁
- ・ 日本公認会計士協会リサーチラボ
- ・ 独立行政法人国際協力機構（JICA）
- ・ 日本マイクロソフト株式会社
- ・ 一般社団法人新時代戦略研究所

2018年度：2名

- ・ 東京駿河台法律事務所（弁護士）
- ・ 株式会社チャレナジーアソシエイト

2017年度：4名

- ・ 熊本県庁
- ・ 株式会社イーコンプライアンス
- ・ アクセンチュア株式会社
- ・ 株式会社保健同人社

2016年度：6名

- ・ 防衛省（海上自衛隊）
- ・ 埼玉県庁
- ・ 茨城県庁
- ・ 千葉県企業庁
- ・ 豊島区役所
- ・ 独立行政法人国際協力機構（JICA）

なお、職業人が一般入試に出願することも可能。
また、入学時に長期履修計画の申請をして最大4年かけて学位を取ることが可能。

2021年度入学者選抜について

一般入試と職業人選抜の2種を実施

＜出願期間と入試日程＞

- 出願期間：7/16（木）～7/22（水）
- 専門科目試験日：9/2（水） ※変更あり
- 第1次合格者発表：9/11（金）14時
- 口述試験：9/24（木）
- 最終合格者発表：9/30（水）14時

2021年度入学者選抜について

＜審査内容＞

※変更あり

- 書類審査（募集要項に明記された書類）
- 外国語審査：英語
 - ※TOEFLスコア提出（2018/7/16以降に受験したスコア）
 - ※ただし、英語を公用語とする大学を卒業した場合、スコア提出が免除される場合あり（事前に大学院チームに問い合わせること）。
- 専門科目試験：5つの試験区分（法律、行政、政治、国際関係、経済学）から選択
 - ※ただし、経済政策コース志望者は、「経済学」を選択すること。
- 口述試験（専門科目試験合格者のみ）

2021年度入学者選抜について

＜変更内容＞：詳細は6月中旬頃までにHP上で周知する。

- 専門科目試験：筆記試験は行わず、書類選考とする。
 - 新たに、エッセイ（所定の様式）及び推薦書（所定の様式）を提出すること。
 - エッセイは、5つの試験区分（法律、行政、政治、国際関係、経済学）に対応したテーマを課す。
- TOEFLスコア（写）の提出について
 - スコア（写）の提出期限を9月2日まで延長する。
 - 出願時にスコア（写）が提出できない場合は、理由書（所定の様式）及び英語能力を証明する書類を提出することで出願を認める。
 - 口述試験受験者のうちスコア（写）が提出できなかった者は、口述試験において英語能力を問われる。

2021年度入学者選抜について

＜変更内容＞：詳細は6月中旬頃までにHP上で周知する。

- 出願手続

- 出願書類は郵送だけでなく、オンライン上でも提出する必要がある。

- 出願・受験に当たっては必ずHPを確認してください。

- <http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/admissions/application-information/>

学生・修了生の声（一般入試）

- 中村 友子さん 2009年入学 公共管理コース
- 今泉 誠也さん 2014年入学 経済政策コース
- 中原 由棟さん 2017年入学 国際公共政策コース
- 藤田 香澄さん 2017年入学 国際公共政策コース

学生・修了生の声（一般入試）

中村友子

公共管理

2009年4月入学



2011年にGraSPPを卒業後、国際文化交流を実施する独立行政法人に職を得ました。国内で二部署を経験した後、夫の住むノルウェーで出産、3年半の育児休業を取得。職場復帰と同時に3歳の娘と1歳半の息子（当時）を連れてフィリピン・マニラ事務所に副所長として着任しました。

学部卒業後、国の文化政策に関わる仕事に就きたいと思いからGraSPPの門を叩きました。第二本部棟の自習室で机を並べた友人たちと同様、当初は公務員試験の勉強をしていたのですが、次第にジェネラリストよりもスペシャリストを目指したいという意思がはっきりし、最終的には日本で唯一の国際文化交流専門機関に志望を定めました。省庁や国際機関で働く同級生に比べれば、大分緩やかなキャリアを選択したと思います。高校でデンマークに、大学でノルウェーに留学したことから、家庭を何より大切にし、気負わずに毎日を充実させているスカンジナビアの人々に、どこかで影響を受けていたのかもしれません。

日々、文化芸術交流事業を企画・実施したり、日本について研究する学術機関を支援したりする中で、官民学のカウンターパートから多種多様な要望が寄せられます。そんな時はどの政策ツールを使ったら相互利益を担保しつつ、彼らの望む目標達成に寄り添うことができるのか、GraSPPで学んだ政策分析や交渉学の視点を思い出すようにしています。また、学術論文や研究機関からの助成申請書を読むのも仕事のうちですが、在学中に他学部の授業も履修し様々な分野の文献にあたった経験が役立っています。

学生・修了生の声（一般入試）

今泉誠也

経済政策

2014年4月入学



私は経済政策コースを2016年に修了後に金融機関で2年間勤務し、2018年から国土交通省で勤務しています。GraSPPの2年間のうち特に今につながっている経験と修了後のキャリアについて述べたいと思います。

GraSPPの2年間で印象的だったのはその多様性に富んだ環境でした。GraSPPには様々な国の政府や中央銀行、国際機関で働いた経験のある学生も含め、様々な専門の学生がいます。そのような学生とともにケーススタディを行うなど、共に学んだ経験は貴重だったと思います。学部時代、部活でサッカー中心の生活を送っていた私は正直英語に課題がありましたが、GraSPPでは英語で行われる科目にも自分の関心に近いものがたくさんあったので、様々な科目を履修し、周囲の学生から多くの刺激を受けました。それがその後のキャリア形成のモチベーションになっています。何を学ぶかだけでなく、誰と学ぶか、ということも重要だと思っています。



GraSPPにて

学生・修了生の声（一般入試）

中原由棟
国際公共政策
2017年4月入学



—この4月から社会人として働いているそうですね。

はい。実はいわゆる社会人学生になりました（笑）。僕は、元々アカデミズムに興味があったので大学院への進学を考えていました。学部は法学部だったんですけど、修士で何を研究していこうか考えていた大学3、4年生の頃がちょうど、テレビやネットでTPPの話題が頻繁に流れていた時期だったんですよ。そのような報道などを見ながら、徐々に農業経済に興味を持つようになって、それで大学院では農学生命科学研究科に進学しました。その時の指導教官が学者でもありながら政府関連の委員会にも出席されていて、その教授の姿を見て、こういう道も面白いなあと思いましたね。その教授の影響もあって、農業×政治・政策という観点からももっと学びたいと思い、GraSPPを受けようと思いました。GraSPP入学後は勉強に加えて自治会や課外活動として大使館ボランティアの活動にも力を入れました。進路や将来のことなど、自分の人生について色々と悩みましたが、「第一次産業の活性化なくして地方経済の活性化なし、地方経済の活性化なくして日本経済の活性化なし」という僕なりの信念があったので、今の農林水産業関連の仕事を目指すようになりました。幸いにも、在学しながら働くことに理解をいただけたので、この4月から働き始めました。

学生・修了生の声（一般入試）

藤田香澄

国際公共政策

2017年4月入学



—大学院から東大に入学してから、学生生活はどうか？



すごく楽しく、充実しています。1年生の時に学生自治会に入ったんですけど、GraSPPは学生間の交流や外部講師の方も多いですし、いろんな人と出会って、やりたいことが一気に増えました。大学の際は体育会系のバレーボール部に所属していて授業とバレーボール漬けの4年間だったので、大学デビューって感じです（笑）

去年はGraSPPが紹介してくださるプログラムをフル活用しました。最初に参加したのはLKY Japan Study Trip（ジャパNSTADITリップ）というプログラムで、リー・クアン・ユー公共政策大学院（LKY）の学生30名が日本に来て、彼らと一緒に日本を巡る研修旅行でした。私は入学前でしたが、幸運にも参加させてもらったんですが、それまで同じ年代の人としか話したことがなかったので、様々な経歴の方の話を聞いて衝撃を受けて、突然世界が広がりました。あとは11月にはベトナムで行われたAPECのユース会議にも参加しました。APEC会議の前々日に各国のユース（学生）が会議をするんですが、事前準備もして、各国代表が持ち寄った意見を現地で提案書にまとめる作業はとても刺激的だったし、実際のAPECの各国首脳による講演を見られたのも貴重な経験でした。

学生・修了生の声（社会人学生）

- 松川 広司さん 2016年 防衛庁より入学 国際公共政策コース
- 中村 星紗さん 2015年 総務省より入学 法政策コース
- 福山 亜希子さん 2015年 衆議院事務局より入学 法政策コース
- 阪下 竜也さん 2011年 埼玉県庁より入学 公共管理コース

社会人学生 の声

NEWS LETTER

GRADUATE SCHOOL OF PUBLIC POLICY, THE UNIVERSITY OF TOKYO

vol.
49
Oct. 11, 2017

東京大学公共政策大学院

GraSPP
THE UNIVERSITY OF TOKYO

—自衛隊からGraSPPにいらしたと伺いました。

海上自衛隊に所属しています。これまでは主に航空部隊で勤務してきました。もともと、パイロット志望で、就職活動の際に自衛隊パイロットという選択肢を知り、この道を選びました。

入隊後、江田島(広島)の海上自衛隊幹部候補生学校で学びました。同期は一般大学卒と防衛大学校卒がそれぞれ約100名という構成でした。卒業後、約半年間の遠洋練習航海に出ました。ハワイ、アメリカ西海岸サンディエゴ、メキシコ、エルサルバドル、ペルー、チリ、タヒチ、ニュージーランド、オーストラリア、マレーシア、韓国をめぐりました。最終寄港地の韓国には、遠洋練習航海として初めて入港し、交流が叶いました。エルサルバドルはとくに印象に残っています。治安がよくないので、研修場所に向かうときに、警察と軍隊が前後について、ものものしく護送されました。長男は私がアメリカ西海岸の洋上にいるときに産まれました。東京の晴海に無事到着し、感動の初対面のはずが大号泣されたことを覚えています(笑)。

私は当初、パイロットを目指していましたが、最終的にはP-3C哨戒機の戦術航空士(Tactical Coordinator: TACO)となりました。小月基地(山口)と下総基地(千葉)で航空士としての訓練を受けた後、那覇基地(沖縄)、厚木基地(神奈川)で勤務しました。また、2013年に4カ月間、ジブチ共和国でソマリア沖・アデン湾の海賊対処に従事しました。ジブチには自衛隊初の海外活動拠点があり、各国の視察やVIPを受け入れることも多く、私はその対応を担っていました。地元の人向けに柔道教室を開いたり、文化交流の一環で沖縄のエイサーを踊ったり、他国軍の基地と交流したり、面白い毎日でした。ジブチはイスラム教国とはいえ世俗的で、旧宗主国がフランスであるため、ワインも食事もおいしかったです。日本にいるときと比べて地上での業務量も少なく任務飛行に専念できましたし、運動やトレーニングも十分にできて、非常に充実していました。



学生 インタビュー
第25回

松川 広司さん
(国際公共政策コース2年)

機会を頂いたので、単位取得以外の科目もできる限り聴講しています。地域政治研究の科目は、履修と聴講を含めて全て取ろうという目標を立てています。実は自分で「自己紹介した科目は、どんなにきつくても逃げない」というルールを課しています。私のようなバックグラウンドだと、良くも悪くも印象に残り、次の授業にいないと「あの自衛官、逃げたな」と思われますし(笑)。大学院生活の総仕上げとして、研究論文も書いています。藤原帰一先生に指導教官をお願いし、ウクライナ危機前後のNATOの変化をテーマに執筆を進めています。

週末は子どもと過ごすように努めています。父親が家でも勉強している背中を見ているからか、子どもたちも、図らずも勉強するのは当たり前と思ってくれているようです。いまは漢字検定の家族合格表彰状を目指し、みんなで合格を目指しています。また、最近ではキッズ・トライアスロンの出場に向けて練習に励んでいます。文武両面において困難に負けずにチャレンジできるような、強い人間に育って欲しいと思います。(インタビュー・文責 編集担当)

社会人学生 の声



中村星紗 (from Japan)

在校生

法政策

官公庁

総務省より2015年入学 法政策コース

— 人事院から派遣されているということですが、背景を伺えますか。

人事院の国内研究員制度で派遣という形をとっています。これは各省から希望者を募って国内の大学院で研究に従事させる制度です。私は総務省で働いており、情報通信分野の仕事の担当でした。国家公務員II種で入省したのですが、職場では採用区分は関係なく企画の仕事もしました。そのうち、政策を立案するときに関連する法律の知識や従来の政策等の効果を分析するための経済的な知識がほしい、大学院で勉強したいという気持ちが高まりました。この人事院の制度では国公立であれば希望の大学院を受験できます。毎年、各省から十数名私の代は全省庁から14名派遣されています。

実は、GraSPPの草創期に派遣されていた職場の先輩に相談したら、私が勉強したい内容からすると、法律、経済、政治、問わず柔軟にカリキュラムが組めるGraSPPがぴったりだ、と勧められました。

— 1年目が終わっていかがですか。

GraSPPでは、取得できる単位数の上限が38単位と決まっていますが、取りたい授業がたくさんあって、聴講生としてもGraSPPや他学部の授業に参加しました。松村敏弘先生の「規制政策」、「法と経済学」は自分が関わってきた業務に直接関係する内容で、なおかつ今まで意識したことがない部分に目が向きました。

奥村裕一先生の事例研究3部作「デジタル時代の行政と社会」も面白かったです。ICTによる市民参加型社会への移行、国のデータを公開して政府の透明性を高める、電子政府やマイナンバーなどを通じて行政を効率よく動かすなど、幅広いテーマが取り上げられましたが、今後の行政の在り方と国民の関わり方は変わっていくだろう、という共通の認識が土台になっていました。私の職場では電子決裁がほぼ100%、印鑑は使っていません。また、外山秀行先生の「法制執務の基礎と応用—法治国家の政策対応」は、職場にいてもなかなか学ぶ機会のない法改正に必須の実務的な知識を、きちんと体系立てて学ぶことができて、ためになりました。

久しぶりの大学生活で、周りとの年の差を感じなくもありませんが、省庁希望の仲間が多いので、省庁で働いている人間として生の経験を伝えたりと多少は役に立っているのでは、と思います。

今は、当初の興味から派生して“Nudge”というアイデアに興味があり、GCL（ソーシャルICTグローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム）のNudgeユニットに参加させていただいています。“Nudge”というのは、人間の持つ行動特性をうまく利用し、選択の自由を残したまま人々の行動を良い方向へ変容させるアプローチです。これまでのように上から指示して人々を正しい行動に導くのではなく、彼らを軽く押しついたりして人々を正しい方向へ送り出す戦略です。これが法規制による強制ではない今後の政策形成に役立つのでは、と考えています。大学院に来なかったら、こんな面白いアイデアがあったのを知らずにいたと思います。

社会人学生 の声

学生

インタビュー

福山亜希子さん

法政策コース1年

GraSPP
THE UNIVERSITY OF TOKYO



NEWSLETTER

第41号

発行日 2015年7月31日

GraSPP
THE UNIVERSITY OF TOKYO

東京大学公共政策大学院
GRADUATE SCHOOL OF PUBLIC POLICY
THE UNIVERSITY OF TOKYO

——大学卒業後10年以上経ってから大学院入学とは日本ではかなり珍しいと思いますが、きっかけは何だったのでしょうか？

職場（衆議院事務局）で「大学院で学んでみないか」と声をかけてもらったおかげです。実はチャンスがあれば大学院で勉強したくて、意向調査で希望を出していたので、GraSPPで学べることになったときは嬉しかったです。選択肢である首都圏の国公立の大学院のうち、学びたいことに一番近い内容を提供しているGraSPPを選びました。GraSPPを修了した男性の先輩がいます。先輩が在籍していたのは7、8年前で、話を聞きに行ったところ「だいぶ経ってGraSPPもずいぶん変わっているだろうが、自分は行って非常によかった」とのことでした。

もともと公務員志望で、一般職（Ⅱ種）で今の職場に入ったのですが、入ったら総合職（Ⅰ種）との仕事の違いはなく、男女の区別なく働け、すごく公平で女性が働きやすい職場です。ここで働けて幸せだと思っています。省庁等に出向の機会もあり、限られた範囲とはいえ、違う世界に触れられるチャンスが比較的多いのもこの職場の魅力です。国土交通省に出向したことがあります。行政と立法の違いに直接触れられた良い機会でした。

法律案に関する論点やデータなどをまとめた参考資料集を作成し議員に提供する仕事をしているうちに、もうちょっと勉強して自分のベースアップを図りたいと思ったのがGraSPPを目指した動機でした。視野を広げたいという気持ちもありました。

2020年5月29日

——授業はいかがですか？

現実の政策とリンクしている授業が多く、GraSPPに入学して良かったと思っています。

今学期（S1）の八田達夫先生の「ミクロ経済学基礎」は、実際の政策に直結した話が多いだけでなく、先生の忌憚ない意見もちょうくちよく伺うことができ、有意義でした。凝縮されていて濃密な時間でした。ただ、他の授業との兼ね合いもあり、経済科目で必須の4単位のうち残り2単位は来年に持ち越すことになったのが気かりで、気かりで。おまけに、来年取る予定の授業が苦手な英語の授業になりそうなんです。どうして!?!と、どんよりとした気分です（苦笑）。

——久しぶりの学生生活で苦労話があれば聞かせてください。

たまに若者言葉がわからないことがあります。その場でなかなか聞けなくて。気後れしていないで聞かないとダメですね。

LINEデビューも果たしました。これまでは仕事で必要なかったもので、SNSは一切やっておらず、ガラケーで間に合っていました。とはいえ、学生になるとSNSとスマホは必須だろうな、とうっすら覚悟はしていたところ、案の定、入学直後にみんなでLINEのアカウントの交換が始まり、慌ててスマホを買って走りまわりました。

事例研究用のFacebookグループを辻田先生が作成してくださり、そこに授業の資料がアップされたりするので、Facebookも始めました。LINEもFacebookもおっかなびっくり始動というところ。ITツールやSNSを自在に使いこなす今の学生のスキルに、感嘆しています。

（インタビュー・文責 編集担当）

社会人学生 の声



阪下 竜也さん 埼玉県庁より、公共管理コースに2011年入学。留学生との交流をはじめ、海外との学術交流イベントや学内イベントに積極的に参加。キャンパスアジアのサマースクールに参加した時の感想。

板門店の休戦ラインを訪れ、韓国の歴史を自分の肌で感じた。

GraSPPの親しい友人が冬学期から交換留学に行っています。その友人たちの話を聞くうちに、「自分も海外で勉強してみたい」と思うようになりました。そんなある日、Campus-Asia International Summer School (ISS) 追加募集のお知らせを見つけたのです。これはいい機会だと思い、参加することにしました。今回のISSはソウル大学校国際大学院(GSIS)で、8月1日から13日まで行われました。月曜日から木曜日は講義、金曜日はフィールドトリップ、週末は自由行動です。

ここでは、現地でのフィールドトリップについて紹介します。私の滞在中、フィールドトリップは2回ありました。1回目はソウル市内に、2回目は非武装中立地帯(DMZ)に行きました。DMZは非常に印象深い場所でした。映像でしか見たことのない、北朝鮮の景色を見ることができます。幅4キロメートルのDMZには、休戦後50年以上手つかずの森が広がっています。板門店の休戦ラインでは、「世界で唯一の分断国家」の現実と緊張感を強く感じました。その一方で、DMZは観光地でもあるわけです。なんとも言い難い、複雑な気持ちになりました。

サマースクールに参加して、私は韓国のことをよくわかっていないとあらためて思いました。韓国(GSIS)の学生は、日韓の歴史や関係についてよく勉強しています。一方で私たちは不勉強だなと思いました。お互いのことを知るのが相互理解の第一歩になるのかもしれない。

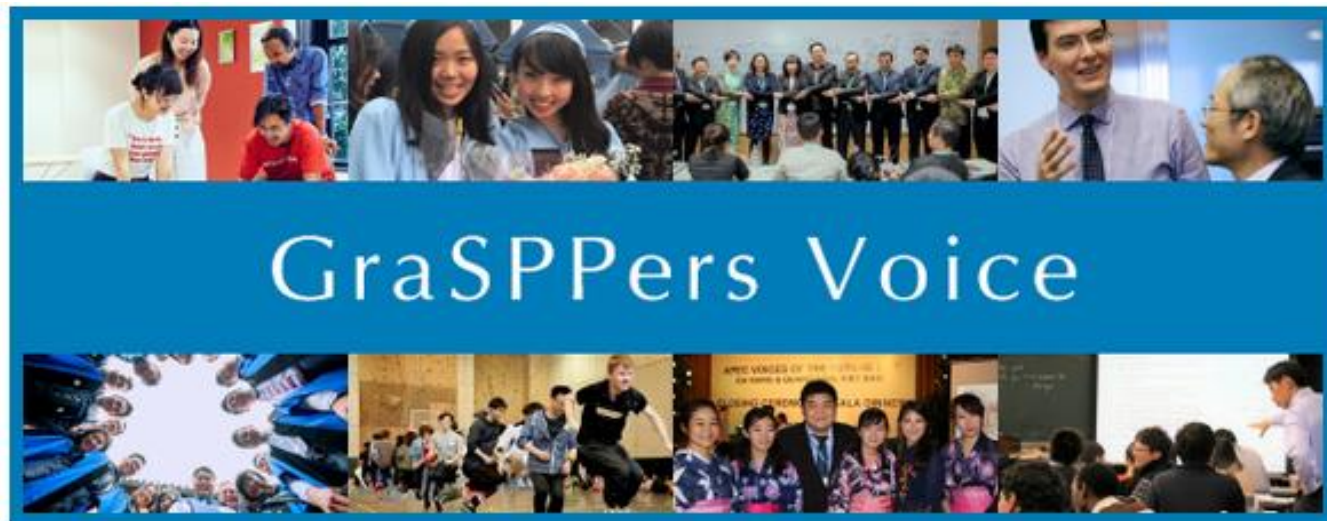
今回初めて韓国に行って、韓国の印象がすごく良くなりました。ソウルは便利で快適な街でした。とくにインターネット環境は日本より進んでいると感じました。何より街の人が非常に親切にしてくれるのが、とてもうれしかったです。Campus Asia プログラムは、知見を広げるのにうってつけだと思います。興味のある方に、サマースクールへの参加をお勧めします。

2020年5月29日



公共政策大学院





GraSPPers Voice

在校生の声、留学体験談、官公庁、企業、国際機関等で活躍する修了生の近況など、コース別、キャリアセクター別に検索可能なページです。 <http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/en/grasppers-voice/>



2019.9.18 | Nanum JEON
from South Korea

修了生 国際プログラム シンクタンク
国際機関



2019.7.17 | Shuwen Zhou
from China
From GraSPP to the UN to
'maybe' academia

修了生 国際プログラム 国際機関



2019.4.15 | 大曲由起子
from Japan
Programs that leave legacy
throughout your career

修了生 国際公共政策 国際機関



2019.4.8 | 赤尾邦和
from Japan
GraSPPの経験を活かした国際機関
でのキャリア形成について

修了生 国際公共政策 国際機関



2017.11.27 | 高橋竜一
from Japan
我が人生の「戦犯」を思う

修了生 法政策 地方公務員



2020.2.17 | 稲田啓輔
from Japan
「日中韓」という一つの軸

修了生 国際公共政策 交換留学
ダブルディグリー SNU PKU 官公庁



2019.5.7 | 今泉誠也
from Japan
官民のキャリアにつながった2年
間

修了生 経済政策 交換留学 HEC
官公庁 金融



2017.2.21 | Gu Baozhi
from China
Benefits of life in GraSPP

修了生 国際プログラム 官公庁



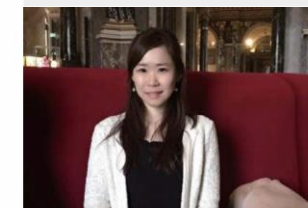
2019.8.16 | 木下真理
from Japan
Opportunities chain to develop
an interdisciplinary core for
my career

修了生 国際プログラム 官公庁



2019.4.23 | 吉田泰己
from Japan
行政をデジタルで変革する

修了生 経済政策 官公庁



2016.6.22 | 中村星紗
from Japan
第22回学生インタビュー（ニュー
スレター44号掲載）

在校生 法政策 官公庁



2019.7.23 | 篠木慎
from Japan
人生の岐路で思うこと

修了生 国際公共政策 官公庁



2017.10.22 | 松川広司
from Japan
第25回学生インタビュー（ニュー
スレター49号掲載）

在校生 国際公共政策 官公庁



2015.8.25 | 福山亜希子
from Japan
第20回学生インタビュー（ニュー
スレター41号掲載）

在校生 法政策 官公庁

お問い合わせ先

東京大学公共政策大学院

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

電話：03-5841-1349

メールでのお問い合わせ：

- 専門職入試、博士課程、履修関係、その他のお問い合わせ（大学院チーム）
ppin@j.u-tokyo.ac.jp
- 国際プログラム（MPP/IP）
mppipDesk@pp.u-tokyo.ac.jp
- キャンパスアジアプログラム（CAMPUS Asia）
campusasia@pp.u-tokyo.ac.jp
- 交換留学・ダブルディグリープログラム
exchange@pp.u-tokyo.ac.jp